

農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

タイトル 大規模和牛繁殖モデル農場および耕畜連携の取組み

J A 名 J A 東西しらかわ（福島県）

<p>1 動機 (経緯)</p>	<p>J A 東西しらかわ管内の主力産業である畜産業は、原発事故の影響を受け、放牧や自給飼料給付の自粛等を余儀なくされたことから、畜産経営コストが上昇しています。</p> <p>また、稲作業は米価下落等による担い手の減少・耕作放棄地の拡大が進んでおり、畜産業・稲作業両面からの対策が求められています。</p>
<p>2 概要</p>	<p>当 J A は、管内畜産農家 14 名との共同出資子会社を設立し、県内最大規模となる和牛繁殖農場を建設のうえ、モデル的農場運営の実践に取り組みとともに、遊休農地を活用したデントコーンの低コスト栽培、デントコーンや飼料用米を含む飼料用作物の給与実験に取り組んでいます。</p> <p>なお、農林中央金庫福島支店は、デントコーンの低コスト栽培実証実験および繁殖牛への飼料用米等の給付実証実験に対し助成を行うとともに、アグリビジネス投資育成(株)と連携し、前述の J A 子会社に復興ファンド 30 百万円を対応しています。</p>
<p>3 成果 (効果)</p>	<p>上記の取組みにより、地域畜産業の復興に加え、管内の飼料用米等の飼料用作物の需要が高まり、当該作物の一段の生産拡大と所得向上、耕作放棄地の解消が期待されます。</p> <p>また、大規模和牛繁殖農場と耕畜連携事業の新たなモデル事例となることが期待されます。</p>
<p>4 今後の予定 (課題)</p>	<p>モデル農場は、最新技術を用いた飼養管理の導入や飼料用作物の活用等により、低コストかつ先進的な畜産経営モデルの確立と、管内畜産農家への技術指導に取り組む予定です。</p> <p>また、デントコーンの低コスト栽培方法についても、実証結果を管内農家に開示しながら、管内での普及を目指します。</p>



新設したモデル農場



デントコーン低コスト栽培の様子